



新製品情報

トランスロン 音声通話機能を追加 6月末から新サービス

富士通グループのトランスロン（本社・横浜市、加藤祐三社長）は六月二十八日から、ネットワーク型デジタルタコグラフ（運行記録計）で使

えるクラウド型運行支援サービスで「音声通話オプション」を販売開始した。音声送受機「ハンドセット」を取り付ければ、事務所とドライバー間で

短時間の無線通話ができるもので、業界では初。

トランスロンは平成二十二年にネットワーク型デジタルタコ「DTS-IC1」、翌年十月にドライブレコーダー機能を追加した「DTS-IC1D」を発売。どちらも、

富士通のネットワークとクラウドを活用したリアルタイムの運行管理ができるのが特長だ。

車両の運行状況を確認できるほか、手作業だった運行支援ソフト、地図情報などの更新も自動化。システムの維持管理だけでなく、初期導入費を含めたユーザーのコスト負担を軽減した。

運行支援や地図ソフト、Q&Aなどを組み合わせ、一括サービスとして提供。月々の利用料は定額でユーザーが利用しやすくなっている。



デジタルコに通話機能を加えた商品は業界で初

「音声送受機取り付けるだけ」

「音声送受機取り付けるだけ」

「音声送受機取り付けるだけ」

「音声送受機取り付けるだけ」

六月末から新たに始まったのが、クラウド型運行支援サービスでの音声通話オプション。デジタルコに専用の音声送受機、事務所に市販のマイクとスピーカーを取り付けられ、運行管理者とドライバー間で、一回当たり最大二十秒通話できる。

これまで任意のメッセージを車載器が読み上げる機能はあったが、ドライバーと自由に会話することはできなかった。「急な仕事が入ったときなど、自由に会話できる機能が欲しい」との声がユーザーからあった。運行管理規定には緊急時の連絡体制確立も定められている。ドライバー操作を簡単にし、安全面にも配慮した「情報機器事業推進部」。

「急な仕事が入ったときなど、自由に会話できる機能が欲しい」との声がユーザーからあった。運行管理規定には緊急時の連絡体制確立も定められている。ドライバー操作を簡単にし、安全面にも配慮した「情報機器事業推進部」。

「今回のサービスはハンドセットを取り付けるだけで利用できるなど、ユーザーの手軽さを追求した。通信事業者の電波を使うので、無線免許も必要ない（同）。

利用料は二契約当たり月額千百五十五円（税込み）。外付けの音声送受機「ハンドセット」は一台当たり五万四百円（同）。問い合わせ先は同社情報機器営業部、電話045（476）4640。

「音声送受機取り付けるだけ」

「音声送受機取り付けるだけ」

（小林 孝博）